

## パワーリベラメンテ導入記(5)

### —再生方法の比較—

#### 1. 始めに

前報 (2)と(3)でデジタル入力系へのタップへの導入について、前報(4)ではアナログ入力系へのタップへの導入について報告しましたが、これらすべてのグレードが上がったところで、相互の比較試聴を行ってみました。

#### 2. パワーリベラメンテの効果の試聴方法

試聴の再生ルートは前報 (2)、(3)および(4)で述べたとおりです。CD は EMT981 による再生と Plextor Premium 2U からの読み出しで HQPlayer によるリアルタイム DSD 再生の両方で聴いてみました。

比較試聴に使う音源は、大編成オーケストラものから次のようなラインアップで試してみることにしました。

##### ①マーラー交響曲 1 番

CD :

アバド／ベルリンフィル  
小澤征爾／ボストン  
インバル／チェコフィル  
オラモ／ロイヤルストックホルムフィル

Digital Concert Hall :

ラトル／ベルリンフィル

BS 録画

ラトル／ベルリンフィル  
セガン／フィラデルフィア  
広上淳一／京都市響

アナログ

ジュリーニ／シカゴ

##### ②マーラー交響曲 3 番

CD :

ジンマン／チューリッヒ・トーンハレ

Digital Concert Hall :

ラトル／ベルリンフィル

##### ③ブルックナー交響曲 4 番

CD :

ブロムシュテッド／ライブチツヒ・ゲヴァントハウス

Digital Concert Hall :

ティールマン／ベルリンフィル

### 3. パワーリベラメンテの効果の試聴結果

まず言えることは、こういった大編成のオケものが、再生方法の如何にかかわらず、十分なクオリティで鳴らし切れるようになったことです。前報(2)でも報告しましたように、これまで一段低いパフォーマンスであった Digital Concert Hall が無線 LAN の高速化の効果も相まって、その他の再生ルートと肩を並べるか、それらを凌駕するようなリアルな効果も得られるようになりました。CD 再生も EMT981 による再生と HQPlayer によるリアルタイム DSD 再生のいずれもレベルアップし、今までの CD 再生と印象が変わってしまいました。

マーラー交響曲 1 番の CD と BS 録画は複数の音源を比較しましたが、これまでに聴いたことのない音の分離と溶け合いの上に迫力ある再生が可能で、オケ毎の技量の違いやホールなど録音場所の違いがよく分かるようになりました。BS 録画間の比較では、日米独のオーケストラの音楽へのアプローチの違いまで分かるようです。アナログは録音年代の古さを超えて意外にフレッシュな音がします。CD 間の比較では演奏スタイルとか録音の新旧がよく分かります。不思議なことにラトル／ベルリンフィルの Digital Concert Hall と BS 録画およびアバド／ベルリンフィルの CD はメディアの違いや指揮者の違いを乗り越えて音が良く似ています。Digital Concert Hall と BS 録画はともにライブ感が魅力です。

同じ CD を EMT981 による再生と HQPlayer によるリアルタイム DSD 再生で比較しますと、音の厚みで前者、ディテールの再現で後者に分があるという感じでしょうか。

マーラー交響曲 3 番とブルックナー交響曲 4 番では、CD と Digital Concert Hall の比較となりましたが、CD のクオリティも十分ですが、Digital Concert Hall のライブ感も魅力があります。

### 4. まとめ

大編成オーケストラの音源について、再生方法と音源を替えて試聴しましたが、再生方法の如何にかかわらず、パワーリベラメンテの効果で十分なクオリティで鳴らし切れるようになり、音源の由来の違いがよく分かるようになりました。言わば、演奏の姿やその裏にある音楽に向き合う姿勢まで分かるような気がします。

以上

